



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

バハレーン情勢：国民対話第2回セッション（7日開催）

（7日付現地報道）

1. シーア派政治団体ウィファークの動き

(1) 6日、ウィファークは、7日に開催される国民対話第2回セッションの一部に参加しない意向を示した。ウィファーク代表団のハリール・マルズーク団長は、ウィファーク事務所で記者会見を開き、社会分野セッションにおいて予定されている市民社会団体（NGO等）に関する協議は、法令による措置で対応が可能であり、対話で話し合われる必要はないとして、同分野のセッションに参加しないと述べた（シーア派系ワサト紙報道）。

(2) また、ハリール・マルズーク団長は、オランダ紙（De Volkskrant）に対し、反政府派は国際社会から国民対話に参加するよう圧力をかけられたと感じていると述べた。

2. 国連・各国の反応

(1) 国連事務総長

5日、パン国連事務総長は、バハレーンにおける国民対話の開始、独立専門員会設置を歓迎し、バハレーン政府に対し、さらなる政治、経済、社会改革を進めるよう促した（国連ホームページ）。

(2) 韓国

6日、韓国外務省報道官は、バハレーンにおいて国民対話が始まったことを歓迎し、この対話がバハレーン国民の期待に添った改革に繋がるとを期待しているとした（韓国外務省ホームページ）

(3) タイ

6日、タイ王国は、2月から3月にかけて発生した諸事件の調査を行う独立専門委員会の設立を歓迎し、バハレーンが和解と信頼回復に向け、国民対話を進めていることを全面的に支持する、バハレーンが改革と和解を実現できると信じているとする声明を発表した。

(4) 駐バハレーン英国大使のインタビュー

ボーデン駐バハレーン英国大使は、英字ガルフ・デイリー・ニュース（GDN）紙の独占インタビューに応え、現在、国民対話が進められていることを歓迎した。また、2～3月の時期に反政府派が国民対話の呼びかけに応じるのが遅れたために、過激派が改革運動を乗っ取って暴力活動を起こすことに繋がったと述べた（現地英字 GDN 紙の他、同紙姉妹紙のアフバール・ハリージ紙に掲載）。